

スピーカー 音質比較

Vienna Acoustics Mozart Grand Symphony Edition Haydn Grand Symphony Edition

Mozart Grand Symphony Edition

希望小売価格 ¥450,000 (ペア)

形式：2.5Way・パスレフ方式●ユニット
高域：28mm/シルクドーム 低域：
200mm●能率：85dB/1W/1m●定格
入力：150W●周波数特性：
30-220kHz●サイズ：W220×H
975×D345mm●重量：18.5Kg(1本)
●仕上げ：チェリー・グレー



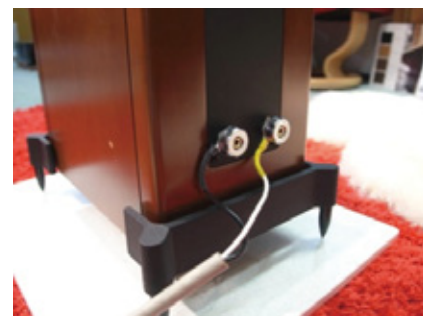
Haydn Grand Symphony Edition

希望小売価格 ¥250,000 (ペア)

形式：2Way・パスレフ方式●ユニット
高域：25mm/シルクドーム 低域：
152mm●能率：88.5dB/1W/1m●
周波数特性：40-20kHz●サイズ：
W174×H361×D265mm●重量：8.2Kg
(1本)●仕上げ：チェリー・ローズウッド・
ピアノブラック・ピアノホワイト



Mozart Grand Symphony Edition 外観と特長



Mozart Grand Symphony Edition は、Mozart Grand の改良モデルです。28mm 口径のシルクドーム型ツイーターに 152mm のスクーカー、さらにスパイダーコーンを使う 152mm のウーファーが組み合わされています。グリルには高音拡散体(黄色矢印部のスリット)が設けられ、グリルのあるなしで音の広がりを調整できるように配慮されています。こういう細かな気配りが Vienna Acoustics の高音質の秘密です。

Mozart Grand Symphony Edition (以下 MG/SE) を最初カーペット直置きで鳴らしましたが、柔らかく良い音で鳴りましたが、音をもう少し引き締めたくて人造大理石ボードを使うと、低音がさらに伸びて引き締まり高音の切れ味と芯の強さが大きく改善しました。MG/SEは、ボード「あり」の方が音が良いのでその状態で試聴します。



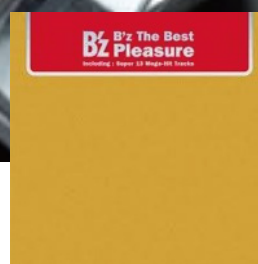
dition
dition

AIRBOW SSS-2013

AIRBOW 新製品 Beet Board の
上に設置

AIRBOW SR6008 Special

Mozart Grand Symphony Edition

B' z "Pleasure":
ZeroVienna Acoustics のさ
らに大型の Beethoven
Concert GrandBeethoven Baby Grand
と比べるとキャビネッ
トが小さく、ウー
ファーの数が少ない

MG/SE は「低音が足りない」ように見えます。しかし、SE は中低音がかなり強化された印象で、サブウーファールの必要性を感じないほどしっかりと量感のある低音が出ます。

パスレフなので低音は若干膨らみますが、だらしなく広がってしまうのではなく、力強く前に出るところは魅力です。

中域は Vienna Acoustics のもっとも得意とする分野です。ボーカルは、滑らかで表情豊か。ギターは響きが甘く、フェンダーっぽい音で鳴ります。シンセドラムや高音の効果音もエッジは若干柔らかめですが、しっかりと鳴ります。高分子を振動板に使うユニットらしい、厚みと粘りを感じる音です。

高域はテキスタイル振動板らしい、スムーズで透明感のある繊細な音です。

内に秘めた情熱を静かに伝える攻撃性の低い MB/SE の音は、様々なジャンルの音楽を耳当たりよく聞かせてくれそうです。

Holly Call Trio "Don't
Smoke in Bed": Smileウッドベースの引き締
まった美しい響きに、
ウッドキャビネットの
響きの良さを感じま
す。直前にテストした
Venere3.0 はサイズの
割に軽いスピーカーで

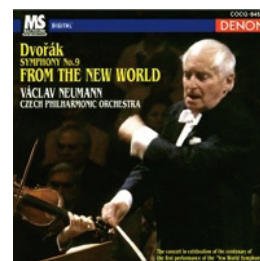
した。そのためか再生される音の密度がやや低く感られました。MG/SE は低音方向の再生周波数レンジこそ Venere3.0 に及びませんが、全帯域の密度の高さ、質感の高さではそれを大きく上回ります。

Vienna Acoustics と並んでお薦めしている focal は、キャビネットの響きが引き締まって密度が高いこと、た樹脂製の振動板を使った中域の暖かさや厚みが Vienna Acoustics と似ています。しかし高域は、金属振動板を使う Focal とテキスタイル振動板を使う Vienna Acoustic で違いがあります。子音がやや太くアンニュイな印象を受けるのが Focal。子音が滑らかで高域までスッキリと伸びている印象を持つのが Vienna Acoustics です。

Focal の厚みある高域と、伸びやかで透明感の高い Vienna Acoustics の高域。どちらもニュアンスが豊かで聞きやすい音ですが、倍音がより高域まで伸びているのは Vienna Acoustics です。

ホリーコールの声には粘りがあり、太さを感じます。

ウッドベースはボディーの音が心地よく、響きが伸びます。バランスが良く聞きやすい音ですが、ニュアンスも豊かです。優しくほのかに明るい音でスマイルが鳴りました。

Neumann & Czech
Philharmonic "From
The New World"

ホールトーンが豊かに響きます。コントラバスの低音もシッカリ伸びています。中域が柔らかいので木管楽器の音は非常にリアルで

す。金管楽器がほのかに木管のように鳴りますが、それはそれで魅力的です。中低音にはしっかりした厚みがあり、弦楽器の圧力感もきちんと再現されます。楽器相互の位置関係が自然に再現される豊かな広がり感。ホールの最も良い席でコンサートを聴いている抜群のバランスが実現します。

こういう音で交響曲が聴けたなら、誰しもが交響曲を好きになれると思います。

暖かく繊細で、立体感に溢れる音で新世界が鳴りました。交響曲とのマッチングは抜群！すばらしく美しい造形美を感じさせる音です。

Haydn Grand Symphony Edition 外観と特長



Haydn Grand Symphony Edition は、パスレフですがポートの開口部がツイーターの取り付け部に設けられています（左写真）。ツイーターは上級モデルとは異なる 25mm 口径のテキスタイル型が使われています。ウーファーは、上級モデルと共通の 152mm スパイダーコーンが組み合わされています。

スタンドには、オール木製の Krypton"SD-1" を使いましたが、響きが良く Vienna Acoustics Haydn とはベストマッチに感じました。



オール木製の Krypton"SD-1" を使いましたが、響きが良く Vienna Acoustics Haydn とはベストマッチ

Krypton SD-1

希望小売価格 ¥ 54,000 (ペア)

型名: SD-1 ●種類: 木製スピーカースタンド ●サイズ: H620×W249×D325mm ●スピーカー設置部: W200×D260×H21mm ●スピーカーベース部: W249×D325×H47mm ●重量: 7.5kg (1本)



Mozart Grand Symphony Edition



B'z "Pleasure": Zero

低域の絶対量は少ないのですが、キャビネットとウーファの口径が小さい Haydn の低域は非常に歯切れが良く、ぐんぐん前に出ます。パワー感が強いので

思ったほど低域が足りない感じがなく、むしろ MG/SE よりもリズムは弾む感じです。

小型キャビネット特有の響きの少なさが、音の切れ味と消え際のスッキリした感じを高めていることがわかります。

上級モデルと同じウーファユニットを使っているとは思えないほど中音域の明瞭度が高く、音の芯がしっかりクッキリしています。ベース音の喰りなど、MG/SE よりシッカリ変化します。高音もネオジウムを使ったユニットが奏功しているのか、透明感が高くスッキリと伸びやかです。

この曲では、中低音の歯切れの良さ、リズムが弾む感じ、中高域の透明度の高さによる楽器とボーカルの分離感の良さなどで、MG/SE よりも Haydn がより楽曲が躍動し楽しく聞ける感じでした。従来モデルと比べると中低音が豊かになり、中高域の明瞭度が上がっています。最近ではトールボーイ型がスピーカーの主流ですが、Haydn を聴いて改めて「ブックシェルフ型の良さ」を再認識しました。



Holly Call Trio "Don't Smoke in Bed": Smile

Zero では低域不足を余り意識しませんでした。が、残念ながらウッドベースの絶対的な量感不足気味でベースのサイズが小さく、音も少し痩せて聞こえます。

す。

ボーカルは、MG/SE よりもしっかりと強く聞こえます。張りのあるこのパワフルな声の方が、本来のホリー・コールらしいと思います。

ピアノも重厚感若干不足しますが、アタック感（打鍵感）は MG/SE よりもはっきりし、ベースの断弦感と合わせてリズムを構成する音は MG/SE よりもしっかり、はっきり出ます。

リズムカルに JAZZ を鳴らす Haydn は、歯切れ良く元気の良いスピーカーです。ウッドベースはボディの音が心地よく、響きが伸びます。バランスが良く聞きやすい音ですが、ニュアンスも豊かです。優しくほのかに明るい音でスマイルが鳴りました。



Neumann & Czech Philharmonic "From The New World"

キャビネットが小さく不要な響きも少ないハイドンは「弦の複雑な倍音」を細かく見事に再現します。余計な響きの空間の透明感

の高さがとても魅力的です。

ティンパニーのような低音楽器の音量はどうしても小さくなってしまいますが、弦楽器のユニゾンの細かさ構成の美しさの再現では MG/SE を明らかに上回り、S/N 感も高く、非常に静かなホールでじっくりと音楽を聞き込んでいる雰囲気が出ます。

楽器の音を正確に聞き取りたいときは、ベランダ席前方（天井吊りマイク付近も同様）の音を私は好みますが、Haydn はそういう理知的で美しい音で交響曲を鳴らします。また舞台袖付近、あるいはベランダ席最前列では中低音よりも高域が勝って聞こえるのですが、Haydn の音はそういうバランスでこの曲を鳴らします。音場の豊かさ（リッチさ）が魅力の MG/SE とは、また異なる魅力を持つのが Haydn です。

試聴後感想

Vienna Acoustics で聞く「弦」に惚れない人はいないと思います。精緻という言葉がピッタリと当てはまり、なおかつ色気さえ感じます。上質なキャビネット（良い響きの木が使われています）と吟味されたオリジナル設計のユニットが組み合わせ

れることで再現される「音の質 / 音質」の高さも魅力的です。長くモデルチェンジしないのは、長くベストセラーを続けているから。時を超えて愛される名機。それが Vienna Acoustics のスピーカー。クラシックファンには是非一度聞いて欲しい製品です。

逸品館っパネタ広場

「魚は釣って釣るもので、待つて釣れるものではない。」

海上釣堀はここがポイント!

鯛など



ハリスの太さに関係なく釣れるので、強いハリスで確実に釣ることがポイントです。特に朝イチが一番早く餌を到達させることに集中しましょう!

青物など



シマアジと青物はハリスを見きっています。

ハリスの存在を感じさせないように餌を見せるのがポイントになります。

ただ、スイッチが入れば何でも食べるのでガンガン攻めてみましょう!